

マイナス2問特訓は、「2問以内のバツで合格」の正答率8割～偏差値70以上(100名中上位2名)各都道府県トップ校を狙う学習法を各人のレベルに合わせてテストできる究極のトレーニング法です。宿題をする、覚えこみをする、難しい問題を考えるのももちろんOKですが、必ず、「やったその問題が、テスト形式でできるのか？」を確かめるマイナス2問特訓をセットで行ってください。結果の出る学習の黄金比率は「インプット(覚えこみなど)3:7アウトプット(ー2問特訓)」だと言われています。頑張ろうね。



1回目の学習
宿題や次のテスト、課題2ページをノートに仕上げたり、調べたり、質問しよう。直接書き込みの場合は、薄いオレンジかピンクのペンで書きこむこと。



2回目の学習(確認)
「調べず」「質問せず」「答え見ず」で教室にある裏紙で2ページを一度にテストしてみよう。
・第5での自立学習では自分で丸付け。(授業中の場合は、塾が採点するよ)
・×が3問以上だと不合格。やり直しの上、再テストです。
・満点合格の用紙、やり直しを完了した用紙は5感動ノートに挟んでおこう



第5教室
合格したものや、やり直しまで完了した用紙を五感動ノートにはさんで、帰る時にここに入れてね→重さばかりイベント

学習のピラミッド

	上位%	偏差値:70以上は2.2%、73以上は1%	学習目標	短速
難関突破	6.6%	■偏差値65以上	完璧を目指していないの壁	ー2問特訓 全科目 テスト範囲3~5 単元で合格
	15.8%	■偏差値60以上	難しいに挑戦していないの壁	テスト範囲3~5 単元で合格
限界突破	50%	■偏差値50以上	やり込んでいないの壁	1単元で合格
一点突破	84.2%	■偏差値40以上	そもそもやっていないの壁	2ページで合格
	~100%	■偏差値40未満	わからないの壁	1ページで合格

①特訓可能なもの

□学志館受講科目のテキスト・プリント

・個別指導の生徒さんは、他塾のテキストや問題集を指導するコースで通塾されている場合は対応いたします。そうではない場合(学志館のテキスト指導がご契約内容の場合や、クラス授業の生徒さん)は他塾の問題集・プリントのー2問特訓は指導いたしません。

□学校の問題集・プリント(科目は問いませんが、受講科目の学習を優先させる場合があります)

解答がある物に限ります(解答がない物を、学志館側で作成する場合は、個別指導を受講いただく必要がございます)。この特訓は、あくまでも無料「暗記特訓・計算特訓」です。解答がないと、覚えこみや答え合わせができません。準備を、よろしくお願いいたします。

②準備物

□答えの書き込まれていない問題集・プリントと、その答え。

解答や解説・解法をテキストに書き込んで学習する場合は、薄いピンクかオレンジのペンで書き込むよう学志館では指導しております。その状態であれば、赤下敷きをかぶせると解答が消えますので、-2問特訓が可能です。

※テキストへの直接書き込みを科目担当の先生から指示された場合も、①-2問特訓をするために全て、薄いピンクかオレンジのペンで書き込む②(調べたり・答を見てうつさず)えんぴつでテスト形式で書き込んだ後、間違い直しを薄いピンクかオレンジのペンで書き込み、間違った問題のみを-2問特訓するのどちらかで、対応可能な準備をしてください(「書き込んでしまったんでコピーしてください」には対応しません。塾内の先生用テキストを貸し出して-2問特訓を行うか、他の書き込まれていないテキストを使用しての特訓へと進んでまいります)

③手順

□宿題や課題2ページの学習を行います。ここでは、すでに「できた！」問題を、テスト形式で本当にできるのか？をアウトプット(出力)するトレーニングを行うことを理解してください。(「思考力を養うために考える学習」ではありません。それはパーフェクトテスト発展版や過去問題特訓などの別トレーニングで行います)

□ノートなどに2ページの学習を行いましょ。時間は長くても20分(1ページ10分)です。問題の難易度によってかかる時間は違いますが、まずは、1ページを10分以内で終わらせる(早い子だと数分で終わります)という目標を持つことで、ダラダラ時間を後延ばしにするのをやめましょ。

□10分以内で-2問特訓(テスト)です。

- ・テキストに答えが書き込まれていませんか？(カンニング禁止です)
- ・左側が解説のページの場合は右側1ページのテストでOKです。
- ・教室にある裏紙(片面が白紙の用紙)を取ってくる。
- ・テスト形式で裏紙に問題を解く。

□(40分単位)残りの時間で、採点とやり直しです。

- ・解答を準備し、漢字間違えなどがないように正しく丸付けを行う。
- ・間違った問題がある場合は、その場で解答用紙に答えを書き込む。
- ・間違った問題のやり直しを行う。数学や国語の読み取りなどの場合は、答えの丸暗記をしても、なんの意味もありません。解法や解説を読む、先生に質問するなどして「理解」しましょ。

□バツが3問以上あると不合格です。

やり直しの後、再テストを行い、2問以内のバツになるまで頑張ってください。

④やり直しまで完了し合格する

満点合格か、(不合格を含め)やり直しまで完成した-2問特訓の用紙は、五感動ノートにはさんでおき、帰る時に第5教室の先生に手渡すか、「-2問特訓・五感動ノート提出」の赤箱に入れてください。

※用紙の重さを計測しハンコを押します。

- ・五感動ノートは1階入り口の棚にもどっています。
- ・計測した-2問特訓の用紙は破棄されます(同じ用紙の提出を防ぐためです)

間違った問題は、テキストの方の問題番号に/印をつけることが学志館ではルールとなっており、この用紙が破棄されても、間違った問題のやり直しは可能です。

意味のない答えの丸暗記をするな

記号を「A→ア→イ」など順番で覚えても何の意味もありません。中身を理解して、自分の力だけで解けるようにしましょ。

